



大阪YWCA

10
2024

<http://osaka.ywca.or.jp>

YWCA (Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

日本に生きる外国籍住民と

出会いと協働の重要性

青木 理恵子



日本は、それまで日本人であった旧植民地出身者を外国人登録令（1947年5月2日公布）により外国人に切り替え、医療や福祉の利用、参政権などから排除しました。

医療、福祉の法律では、国籍による排除はほぼなくなり、国民健康保険や国民年金にも加入できるようになりました。

日本に暮らす外国人は、働く目的の人、留学生、日本人等の配偶者、家族滞在などが多く、自治体で住民登録をした3ヶ月以上日本に生活する外国籍住民は3,410,992人（法務省在留外国人統計2023年12月）です。

2023年は60万人減りました。年々人口が減る日本では外国人と共に将来を創造していくことが必要です。しかし、現在の政府はこの数年入管法を改定してその逆の方向に向かっていきます。

戦後の経済発展を最優先にしてきた日本は、国の中で生活する外国人の権利を剥奪していることを長年正そうとしませんでしたが、ベトナム、カンボジア、ラオスの社会主義体制化により多勢の人々が国外に脱出し、日本も受け入れをせざるを得なくなったことがきっかけとなり1981年難民条約に批准しました。国際条約批准の後に

行った国内法の整備によって、仕事をする人にとっては、労働者の権利と自由を確保することが難しい現状があります。技能実習という制度の枠で働く人は、勤務先を変更することができない一方、長期に入院や治療

を必要とする病気や妊娠がわかると帰国させられるケースも少なくありません。日本は人口が減り続ける2023年は60万人減りました。年々人口が減る日本では外国人と共に将来を創造していくことが必要です。しかし、現在の政府はこの数年入管法を改定してその逆の方向に向かっていきます。2024年6月10日に施行した改定入管法では、難民申請をする人を、3回目以降は相

当の理由を示さなければ迫害の危険がある本国に送還することになりました。また2024年3月15日には、在留資格の中で最も安定した永住の在留資格を

あおき りえこ
1981年から東京都YWCA、日本YWCA、京都YWCAに勤務。京都YAPTで外国人のための電話相談サービスを担当。2002年からNPO法人CHARM事務局長。



ワークショップをする高橋委員(左)と飯綱委員(右)

中高生にワークショップ 自分の中の思い込みを 振り返ってみよう!

7月31日(水)~8月2日(金)、大阪市内で中高YWCA 関西地区カンファレンスが開催され、中高生約70名が参加した。大阪YWCAからは、ユース会員2名がプログラムに協力した。

- ※1 アンコンシャスバイアス: 自分では気づいていないもの
の見方やとらえ方のゆがみや
偏り。無意識の偏見。
- ※2 ルッキズム: 外見的な「美
醜」を重視して人を評価する考
え方。容姿による差別。
- ※3 MBTI診断: 世界45カ国
以上で活用されている国際規
格に基づいた性格検査

中高YWCA関西地区カンファレンスの初日、女性エンパワメント部よりユースの飯綱萌委員と高橋由季乃委員が「自分の中の思い込みを振り返ってみよう!」というタイトルで、アンコンシャスバイアス(※1)やルッキズム(※2)についてワークショップを実施した。その中では、性別による役割分担が無意識のうちに内面化し、「当たり前」を人に押し付けてしまうことがあるかもしれない、ということを強調した。特に、ルッキズムは今日の中高生に関わる問題として取り上げ、社会の中で自然と刷り込まれている「美しさ」の基準について参加者に問いかけた。

ワークショップを実施した委員の思い
ユースのつながりに希望

飯綱 萌

今回のカンファレンスは、私の母校であるプール学院中学校・高等学校が当番校だったため、女性エンパワメント部の委員としてだけでなくOGとして3日間参加した。ワークショップではいくつかグループワークを交えて、社会に溢れるジェンダーの偏見を自分ごととして捉えてもらえよう工夫をした。最初は打ち解けるのが難しかった中高生が、プログラムを通して共に学び、最終日にそれぞれ発表する姿を見て、懐かしさを感じつつも、ユース同士の繋がりがこれからも続いてほしいと思った。

「人を分類する」縛りに気付く

高橋 由季乃

グループワークではファシリテーターとして参加し、参加者同士が対話しやすい場を作ることの難しさを改めて感じた。

寄せられた感想の中で印象深かったのは、MBTI診断(※3)やパーソナルカラー診断のような「人を分類する



自分が縛られている考えをポイ

(文責:女性エンパワメント部)

札幌への帰省



ぶどうの木

今年の夏休みは、夫と息子の3人で、夫の実家がある札幌に帰省しました。お墓参りや親族との会食以外は、それぞれ自由に過ごす時間を初めて楽しむことができました。息子は札幌ドームでのサッカー観戦やショッピングを満喫し、私は北海道神宮で豊かな自然に触れ、可愛らしい野生のリスにも出会えて心が癒されました。また、六花亭で好きなお菓子を選ぶ時間も、幸せなひとときでした。一人でも過ごす時間が持てるようになったことで、息子も大人になったのだとしみじみ感じています。

次の帰省では、もしかしたら息子はお留守番になるかもしれないかもしれません。夫と二人きりの時間が増えそうなので、少し寂しい気もしますが、札幌の温泉でゆっくりと体を休めたり、また違った楽しみ方ができそうなので今からワクワクしています。

(会員 常田 京子)



シャロン千里を訪問

8月の末、高齢者や女性と
子どもへの支援事業の視察と
交流を目的に、中国Yから全
国Y会長及び書記、総幹事、
そして上海、杭州、成都の各市
Y総幹事、通訳、総勢8名の
訪問団が来日した。

初日は京都へ、次なる大阪で
はまず、シャロン千里で高齢者
福祉施設の現場を見学した後、
大阪Y千里会員との交流会、
その後入居者さんと同じ昼食
を囲み歓迎の時間をもった。

その後梅田本館に会場を移
し、お互いのYの活動を紹介、
同じミッションのもと、共通の課
題に取り組んでいることを確
認しあった。

上海では、市当局が「90

中国YWCA訪問団 歓迎の記 2024.8.27



活動を発表

73モデル」、すなわち高齢者
の90%は居宅で介護、7%は
地域高齢者サービスを利用、
施設での介護は3%以内にと
どめる方針を打ち出した。現
在60歳以上が市の人口の37・
4%とかなり高齢化が進んで
おり、介護サービスの整備は喫
緊の課題であるが、介護保険
制度の導入をはじめ、全国に
先駆けて質の高い介護サービ
スを提供する「上海モデル」を
構築しつつあるとのこと。

そのような中であつて上海
YWCAは1998年から
介護サービスについて模索を始
め、まず「上海羅山養老院」を
開設、行政との連携で、現在4
つのデイサービスセンターと2

つの介護施設(入居型)を管
理運営するに至っている。慣れ
親しんだ地域(家の玄関口)で
の介護、施設は小規模で、どの
ポリシーをもって、高齢者と地
域社会との親密な関係を生
み出している。

今後は、日本やシンガポール、
台湾(YMCA)等との交流
を図り、学びを深め、専門性の
高い介護者養成プログラムに
取り組んでいきたいと上海Y
の若い総幹事は語った。

翌日一行は、折しも日本の南
に停滞する台風の動きを気に
しつつ、横浜・東京へ向けて旅立
つていった。

(会員 鹿野 幸枝)

近畿中国帰国者支援交流センターシンポジウム
「中国残留婦人『三世・四世』という経験
―在日コリアン、在日華僑との比較から―
司会者、蘭信三先生(大和大学教授/上智大学名誉教授)による「『日本生まれ』の『三世・四世』が社会に飛び立っている。かれらは、『満州』、日中戦争、敗戦、中国『残留』、日本『帰国』そして定住化という自らに続くおおよそ100年の歴史をどう受け止め、その人生をどう生き抜き、自分たちのことをどう名乗っているのか?」との呼びかけで、このシンポジウムは始まりました。大学院で自身を研究する三世と四世の二人からは自らのアイデンティティをどのように表現するかに悩んだ経験が語られました。「周りの人と共有できる言葉が

なく、歴史が継承されていない。そのため、自身を語るのが難しく、沈黙するしかなかった」「戦争や人間というもの複雑さ、表現してしまふことで見えにくくなっていきたくい」との言葉が語られました。このシンポジウムを通して中国残留婦人・孤児に関する歴史の継承が課題として見えてきました。そして二人の経験は、ウクライナ戦争、ガザへのイスラエル侵攻、緊迫する東アジア情勢、この時代に生きる私たちに多くを問いかけてきました。(職員 坂東 暁子)

Books



それでも、日本人は「戦争」を選んだ
加藤陽子 新潮文庫

「中高生への5日間の集中講義を通して、過去の戦争を現実の緊張感のなかで、改めて生き、考える日本現代史」という説明だが、大人にも読んでほしい。日清戦争から第二次世界大戦の戦争をとりあげるが、本書の始まりは9.11からだ。膨大なディテールを取り上げ、全ては現在につながるという歴史家の真摯な姿勢をみた。



聖書の言葉

あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。
マタイ福音書23章11〜12節

憲法を暮らしと平和に生かそう
1967年創立 **大阪中央法律事務所**
京阪線・地下鉄谷町線 天満橋駅より徒歩3分
お問合せ: **06-6942-7860**
平日10:00~17:00
初回相談料無料・当日相談可
〒540-0033
(住所) 大阪市中央区石町1-1-7 永田ビル4階

未来へ— 安心を創る
FUJIKI 藤木工務店
大阪本店 〒541-0051 大阪市中央区備後町1-7-10
ニッセイ備後ビル1階 TEL06-4964-8700

日本語学科
卒業生

今こんなことしています

～世界各地で活躍している卒業生を紹介しています～

Daniel Wislockiさん 2004年卒(アメリカ出身)

帰国してからニューヨーク市クイーンズ区に住み、もう16年になりました。色々なスタートアップ企業のシステムエンジニアを勤めて、今はアドテック(広告技術)の会社でソフトウェアアーキテクトとして働いています。休みの日には京都出身の妻、友見と息子(6歳)ジョナと一緒に博物館や動物園に行っ、楽しんでます。



大阪YWCA千里 55周年記念親睦会



箕面山荘 山の杜にて

9月18日、8月にリニューアルされたばかりの山荘風の杜(箕面山荘)で食事会をしました。少しでもまたこうして皆で食事会ができてことはほんとに嬉しいことでした。
皆で美味しい食事を楽しみながら心置きなくおしゃべりができる。贅直後パンデミックにより沢な時間だと思えます。私たちは、行動制限を余平和の有り難みをしみじみと感じました。千里の活動もしばらく休止が続かず4年の間でず(会員 広瀬 圭子)

千里のイベント案内

10/26
(土)

秋のバザー
10:00～12:00

10/25
(金)

子育て応援講座
お母さんが
happy になろう!
10:30～12:00
参加費:1,000円



箕面山荘からの景色



食事会の様子

訃報

会員 穴戸 百子さん
9月8日逝去(98歳)

43口 339、817円

募金

川崎 明恵 貴島 照代 笹部 昌子
山下つねよ

会員維持費

有山 正俊 岡部 順子 蔭 建業

奨学金

寄付

(株) サンカラレーシング 匿名3名

吉田佳世子

山東 史子 山本 昌子 吉井 知加

松田 慶子 三澤 文子 山崎久美子

松江 訓子 松下 起子 松下 宣代

中山ゆかり 端野 昌彦 藤井 保男

谷川 毅 津田 基子 豊島 博子

笹部 真樹 沢田 陽子 芹野 恵美

木幡 敦子 小林 直子 西条 哲

貴志 慶子 熊田多美子 小島志佐子

大川 哲次 神屋敷絹恵 河原 玲青

有田 悦子 伊藤 景子 越後 靖子

24/7/1~24/8/31 敬称略順不同

ご協力ありがとうございます

【報告】▼女性エンパワメント部
6/29 インターシッピングプログラム
初回公開講座実施 ▼梅田会員
部 6/11 むらさきつゆくさの
会30周年記念行事実施 ▼千里
ボランティア委員会 ゲートドマ
メンバーが配食リーダー担当
▼他団体 ワンワールドフェステ
イバル日程2/8(土)・9(日)に
決定

【協議】①日本YWCA全国会
員総会 Y's Wonderful Woman
賞推薦者検討 ②クリスマスバザ
開催時間帯検討 12/7(土)
12:00~15:00に ③8/27中
国YWCA訪問 梅田・千里受
入時間帯、出席者検討

今年も実施します! クリスマスバザー 12月7日(土)

12:00～15:00
場所:大阪YWCA本館

皆様のお越しを
お待ちしております



7月運営委員会報告

新入会員歓迎!!

☆梅田 松坂 有佳子